

「調剤喫茶」目標は常設店開業

屋台で雑談 悩み事に耳傾ける

道行く人に屋台で温かいお茶を配り、雑談を通じて悩みなどを聞く薬剤師が関東にいる。まんまる薬局(東京都板橋区)で在宅医療に特化した薬剤師として働く石丸勝之さんだ。病院や薬局などでは話せない不安や不満などに耳を傾ける存在になることを目指し、2021年の秋に活動を開始。2年後をメドに独立して喫茶店と調剤薬局を併設した「調剤喫茶」の常設店舗を設けたい考えで、腰を据えて住民と交流できる場所を築く夢に邁進している。

まんまる薬局
石丸 勝之さん

「みかんの皮って健康に良いのかしら」「ビタミンが入っていて、利尿や解毒の作用もあります。かぜの時には煎じて飲めと言われてますね」

石丸さんは、折りたたみ式の屋台「調剤喫茶 farmateria」を引き、ハーブティーや漢方をブレンドしたお茶を通行人に無料で提供しながら、そ

んな会話を住民と交わす。東京都内北千住の団地内にある薬局の店頭や、石丸さんが住んでいた東武練馬駅前の2カ所です。月1回ずつ、地域の祭りなどイベントも合わせると月3〜4回ほどの頻度で出店している。

提供するお茶は常時5種類ほどを用意。秋はキンモクセイ、冬はほうじ茶や紅茶など、季節によってラインナップを変える。石丸さんは、「お茶を構成する生薬が健康に良いものだと女性のお客様の反応が良かったり、利尿作用のある黒豆茶がよく飲まれたりする。冬は生姜やシナモンなどを入れて身体の芯から温まるようにしている」という。

高齢者が客層の中心で、雑談の中から抱えている悩みを引き出して受け止める。ジェネリック医薬品



やお薬手帳に関する疑問のほか、長文で石丸さんのSNSに相談を寄せる人もいます。自分が受けている治療が正しいのか、治療を受けても改善した気がしないなどの声が寄せられる。薬の専門家の視点から、相談者が抱えている症状や服用中の薬からどのように医師と会話すべきかなどをアドバイスしている。

会話のきっかけづくりとしておみくじを屋台に置く。地域の祭りに出店した際はかき氷とお酒も提供した。調剤喫茶の取り組みに協賛し、店頭を貸してくれる薬局の店主に勧められ、オリジナルのハーブ



お茶飲みながら健康相談 患者のリアルな声届く

ティーも開発。客から好評を得ている。

石丸さんは「お茶の品質で勝負はしていないし、効果もしている。ただ、そこに副次的な効果を加えればその人の生活を少しでも変えられると思っています」と事業の意義を強調する。

(12ページへ続く)



新卒生限定 10泊12日 ハワイ研修実施!

関西圏を中心に全国へオレンジ薬局を展開

初年度年収 **450~550万**

希望店舗での勤務OK! 働き次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します!

- (株)プチファーマシスト
- (株)オレンジファーマシー
- (株)東京オレンジ薬局

全国に125店舗展開中!!
渋谷駅前店・池袋西口店・大阪中津店
阿倍野店・芦屋店・菊川店・北浜店等

インターンシップ参加者募集

オレンジ・元気薬局

検索



薬剤師 国家試験 対策.com

薬剤師を目指す薬学生のための
国家試験対策支援サイトです



ご登録・ご利用完全無料

be89314 検索